

早稲田大学 文化構想学部 日本史 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問数4題、小問数41問で昨年度と同様。記述問題が10問、選択問題31問(内訳は正誤20問・正誤組み合わせ2問・語句選択8問・年代配列1問)。2つ選ぶ形式が昨年度の7問から2問に大幅に減った。出題内容は例年同様、全問複数の時代を対象としたテーマ史。今年度はⅠ琉球、Ⅱ歴史の編纂や叙述、Ⅲ寄付の歴史、Ⅳ地誌・紀行文であった。時代別では前近代31問、近現代10問で、昨年度より近現代が5問減少した。分野別では政治6問・社会経済5問・外交7問・文化23問で、文化史が半数以上を占めた。第Ⅳ問は難しかったが、全体的な難易度は標準であり、8割ほどが基本問題である。試験時間60分は余裕をもってじっくり問題に取り組めるだろう。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔Ⅰ〕	原始～戦後の琉球列島の歴史	問1:エが誤り。ケネディではなくニクソン。問4:オが誤り。筑後国ではなく筑前国。問7:やや難。エが誤り。明は海禁政策のため、中国人の海外渡航・交易を禁じた。問10:沖縄県最初の学士は「謝花昇」。	標準
〔Ⅱ〕	古代～近代の歴史の編纂や叙述	問7:Xが誤り。徳川光圀が編纂を始めた。問9:「大日本史料」は難問。	標準
〔Ⅲ〕	古代～近代の寄付の歴史	問3:エは誤り。現存する大仏殿は江戸時代の1709年に再建されたもの。問5:ウが誤り。三浦の乱は1510年なので16世紀の出来事。問7:エが誤り。蛮書和解御用の設置は1811年なので19世紀の出来事。	標準
〔Ⅳ〕	古代～近代の地誌・紀行文	問3:オが誤り。升ではなく畝。問4:やや難。エが誤り。生田万は大坂町奉行に訴えていない。オは正文。問8:「名所図会」は難問。問9:やや難。イが正解。『会津農書』は1684年、『農業全書』は1697年に成立。問11:「風俗画報」は難問。	やや難

〔総合コメント〕

今年度は第Ⅳ問が難しかったが、全体的には標準レベルである。ただこれまでの傾向とは異なり、問題の半数以上が文化史であったため、例年よりも受験生同士の得点差が生じたとも想像される。記述問題においては漢字力勝負である。「名所図会」(今年度)、「本多光太郎」(2022年度)、「百姓申状」(吉良義央)(2018年度)、「一揆契状」(在郷町)「日本資本主義論争」(2016年度)、「勸進」(碧玉)(2015年度)、「式内社」(2014年度)、「人力車」(総力戦)(2013年度)、「小泉八雲」(2012年度)、「俳風柳多留」(男女共同参画社会基本法)(2011年度)、「凡下」(2010年度)など。また平仮名で書かせる問題もある。2016年度は平仮名で「おふみ」と書かせ、今年度は「玉勝間」の読み(「たまかつま」)、2019年度は「鋳物師」の読み(「いもじ」)、2015年度は「蝦夷」の読み(「えみし」)が出題された。最後に、本学部は良問が多く、努力の量に点数が比例する。地道に学習した者が高得点を獲得できる入試である。